

■ Culture



…話はややかかのぼる(孝徳朝)が『常陸国風土記』行方郡の条に王権が地方豪族を収斂していく過程を示す挿話がある…。

石・森章太郎「新装版マンガ日本の歴史3 律令国家の成立」中公文庫©石森プロ 常陸国風土記には、ヤマト王権の支配に組み込まれた豪族と、地元の「神」との葛藤の伝承が記されている

生活の記録「風土史」

出雲国風土記が収める「国引き神話」は、八策水臣津野命が海の向こうの朝鮮半島、隠岐の2か所、北陸地方から土地を、「国来、国来」などと唱えながら4回にわたり綱で引き寄せ、現在の島根半島を作ったと伝える。古事記、日本書紀にない神話で、三浦名誉教授は「ヤマト王権に隷属していない地元の語

り部集団が、語りの場で伝えてきた話だろう」とみる。

従来この神話は、ヤマト王権に対し、独自に大勢力を誇った出雲の存在感を反映していると理解されてきた。だが、橋本教授は「西から東に流れる対馬海流で移動しながら漁業をした人々の生活実感を表している」とみる。

4回にわたり出雲に引き寄せられた土地の「境目」にあたる3か所程度の地形が、舟で西から東に移動した人々にとって、現在位置を確認する海上からの目印となったことを意味する、との見立てだ。

橋本教授は「風土記が伝える歴史は、各地の個別で具体的な自然環境に基づいた生活の記録である『風土史』として捉えるべきだ。だからこそ古事記や日本書紀がくみ取れない歴史も伝えている」と強調する。

*「日本史アップデート」「世界史アップデート」は終了します。2月4日から、各地の碑を訪ねて歴史をひもとく「碑を巡る」を掲載予定です。